

入レテ、二尺許深ニ軟膨置、右苗代ニ爲立タル芍藥ノ苗ヲ、二尺隔ニ一坪九本ヅ、植付ベシ、既活著タラバ能ク他草ヲ耘リ、時々盛養水ヲ灑ギ、五年許モ右ノ如ク養ヒ置クトキハ、根能ク蔓リ肥テ、一株數十本ノ懸根垂下ル者ナリ、五年目ノ冬十月初ニハ悉掘リ採リテ、其掘跡ニ廐肥ヲ澤山ニ入レ、能ク軟膨置テ、他物ヲ作ルトモ、又芍藥ヲ植ルトモ、其意ニ任スベシ、芍藥ハ第十番ノ氣候ニ應合スル草ナレドモ、五六番ヨリ第十五番以下ノ寒國ニモ、能ク蕃衍スル者ニテ、入用極テ多キ藥物ナリ、宜ク多ク作ルベシ、芍藥ハ他ノ作物トハ其趣異ニシテ、五年ノ間ハ植タル儘ニシテ、掘リ採ルコトノ無キヲ以テ、甚事簡ニシテ人手ノ掛ラザル者ナリ、故ニ土地廣ク百姓少キ國ニ於テハ、別シテ利潤多シ、能ク培養ヲ厚クシテ、此物ヲ作ルトキハ、五年間ニハ一坪ノ地ヨリ十斤以上ノ根ヲ出ス、一坪十斤アルトキハ、一段三千斤ナリ、此ヲ金一兩八十斤ニ賣ト雖ドモ、其價金三十七兩二步ヲ得ベシ、此ヲ五年ニ割ルトキハ一年七兩二步ニ當ル、人手ノ掛ラザル作物ニテ一段年々七兩二步ノ金ヲ得ルコトナレバ、利潤モ亦大ナリ、國土ヲ領スル者ハ、察セズンバアルベカラザル所ナリ、

〔廣益國產考一〕國產となるべき物を左にあぐ

芍藥 是も薄地に作りて益を得るもの也、大和吉野郡宇多郡より作り出せり、隨分作りて農家に利を得るもの也、

〔延喜式三十七典藥〕諸國進年料雜藥

山城國卅二種○中 芍藥四兩、相模國卅二種○中 芍藥黃蓍前胡各一斤、武藏國廿八種○中 芍藥三斤○下

〔毛吹草三〕信濃 芍藥 若狹 芍藥 但馬 芍藥

〔出雲風土記島根郡〕凡諸山野所在草木○中 芍藥